

小川自治会自主防災隊

「災害の備え」と「非常用備蓄品」の準備状況について

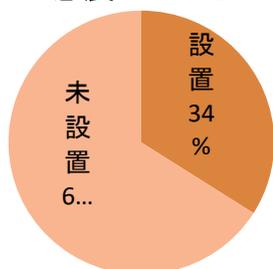
2022 07 防災アンケートより

小川自治会全世帯対象に防災アンケートを実施。

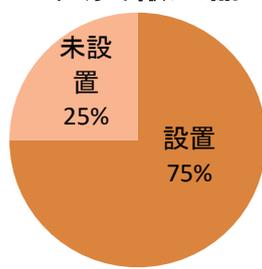
世帯数 1,165 回答数 1,009 回答率 86.6%

□ 家屋の防災対策

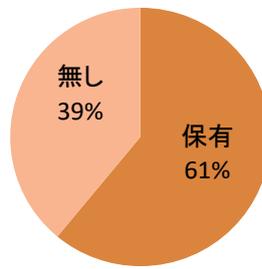
感震ブレーカー



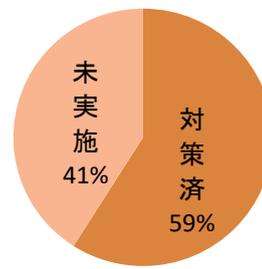
火災報知器



消火器



家具転対策

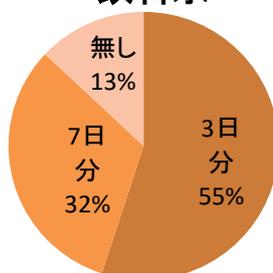


- * 通電火災対策として有効な感震ブレーカーの設置割合が低い。
各支隊にて購入斡旋を行っているが 設置に向けての啓発が引き続き必要。
- * 消火器の保有割合が低く約4割の未保有世帯があるのは心配な数値です。
未保有世帯への保有促進と、使用期限切れ消火器(使用期限10年)への対応が必要。
- * 地震負傷者の30~50%は家具類の転倒・落下・移動によるものです。
約4割の世帯が対策未実施です。家具転対策に取り組みましょう。

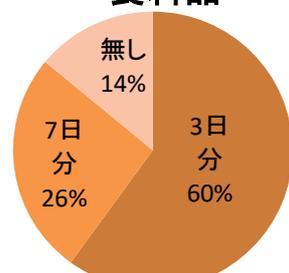
⇒ 防災隊として感震ブレーカー、消火器の購入斡旋(古い消火器の引き取り)を検討する。

□ 非常用備蓄品

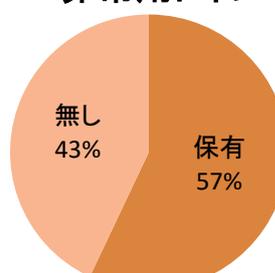
飲料水



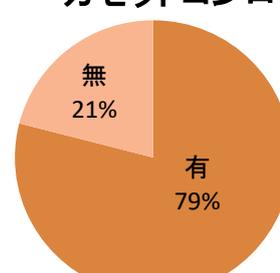
食料品



非常用トイレ



カセットコンロ



- * 水・食料品の備蓄は約6割の世帯が3日分の備蓄です。
ローリングストック(日常備蓄・普段使っているものを少し多めに用意すること)を活用しながら7日分備蓄を目指しましょう。
- * 非常用トイレは約6割が準備あり、一方4割の世帯は準備無しでした。
災害時にまず困るのはトイレです。しっかり準備しましょう。
- * ライフライン停止時の熱源としてのカセットコンロの保有率は約8割と高い数値です。
ボンベの保有平均は4.2本です。1週間分として7本位を準備しましょう。

⇒ 非常用備蓄品(水・食料品・非常用トイレ等)の共同購入を今後も実施いたします。